

# 岡山県感染症週報 2012 年 第 39 週 (9 月 24 日～9 月 30 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

## ◆2012 年 第 39 週 (9/24～9/30) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 36 週	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (80 代 男)
第 37 週	2 類感染症	結核	3 名 (50 代 女 1 名、60 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
第 38 週	2 類感染症	結核	3 名 (50 代 女 1 名、70 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
第 39 週	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 名 (O157 : 20 代 女 1 名、30 代 女 1 名)

### ■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は、大きく増加しました。
- ヘルパンギーナは、わずかに増加しました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 39 週は 2 名の散発事例が発生し、2012 年の第 1～39 週までの累計報告数は 148 名になりました。岡山県は「**腸管出血性大腸菌感染症警報**」を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。例年の状況から、発生のピークの時期は過ぎたと考えられますが、全国では過去に 10～11 月に大規模な食中毒や集団感染が起きたこともあり、今後もひきつづき予防対策を行うことが重要です。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週より大きく増加しました (定点あたり 0.46 → 1.04 人)。調査が始まった 2004 年以降の同時期と比較し、最も患者が多くなりました。発生状況や症状など、詳しくは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
3. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、今週わずかに増加しました (定点あたり 0.52 → 0.67 人)。第 39 週、ヘルパンギーナによる幼稚園の学校閉鎖が高梁市で発生し、この地域を含む備北地域で患者が増加しています (定点あたり 2.00 人)。流行のピークとなった第 30 週以降減少がつついていまいましたが、今週は過去の同時期に比べ患者が多くなりました。患者の中心は 1～5 歳の幼児であり、感染は患者との濃厚接触や、便に含まれるウイルスによる経口感染です。予防には、手洗い・うがいが効果的です。
4. **風しん**は、全国統計で 9 月 20 日～26 日の一週間に 71 名の届出があり、2012 年の累計報告数は 9 月 26 日までに 1,669 名になりました。昨年 1 年間の累積報告 (371 名) と比較して、4.5 倍になっています。地域別では、近畿地方・関東地方でひきつづき患者が増加しています。発生の中心は成人男性であり、また、女性は出産年齢とされる年代が約 73% をしめており、先天性風しん症候群が発生するリスクが非常に危惧される状態です。4 月から始まった流行は依然として継続しており、今後も動向に注意が必要です。岡山県では、2012 年はこれまでに 20～40 代の男性 6 名の届出がありました。  
([全国風しん発生動向調査国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センター HP](#))

### 【お知らせ】

◆2012(平成 24)年 11 月 1 日から 4 種混合ワクチンが定期接種に導入されます。

9 月 1 日から不活化ポリオワクチンが定期予防接種に導入されましたが、9 月 28 日に「予防接種実施規則の一部を改正する省令 (平成 24 年厚生労働省令第 137 号)」が公布され、11 月 1 日から定期予防接種に 4 種混合ワクチン (ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ) が導入されることになりました。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↑	★★★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	→	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↓	
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↘	★	クラミジア肺炎	↓	

### 【記号の説明】

前週からの推移： ↓ : 2倍以上の減少      ↘ : 1.1~2倍未満の減少      → : 1.1未満の増減

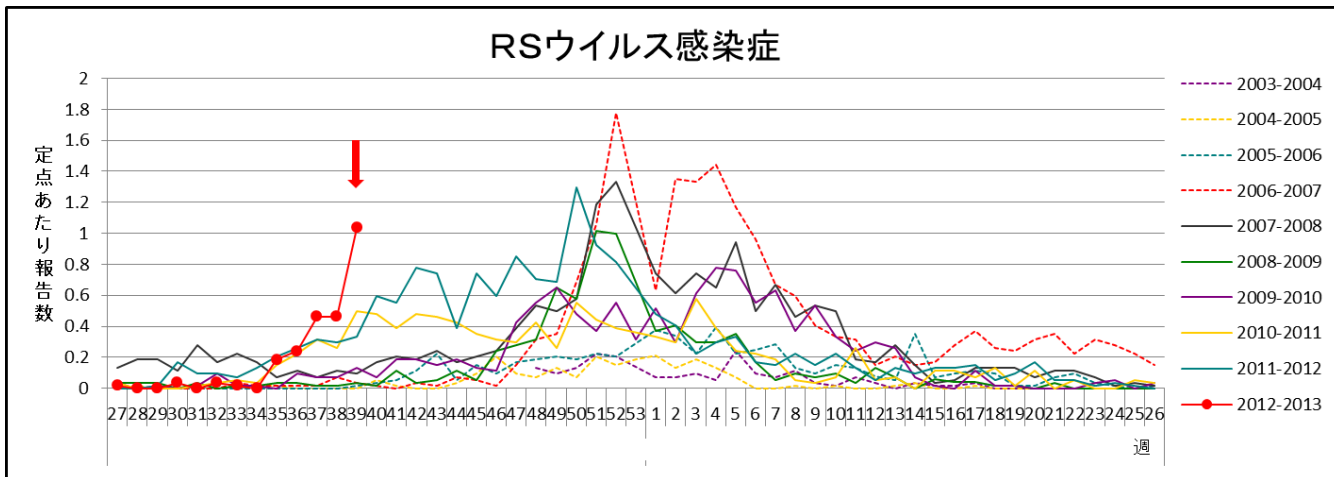
↗ : 1.1~2倍未満の増加      ↑ : 2倍以上の増加

発生状況： 空白 : 発生なし   ★ : 僅か   ★★ : 少し   ★★★ : やや多い   ★★★★ : 多い   ★★★★★ : 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

# 今週の注目感染症

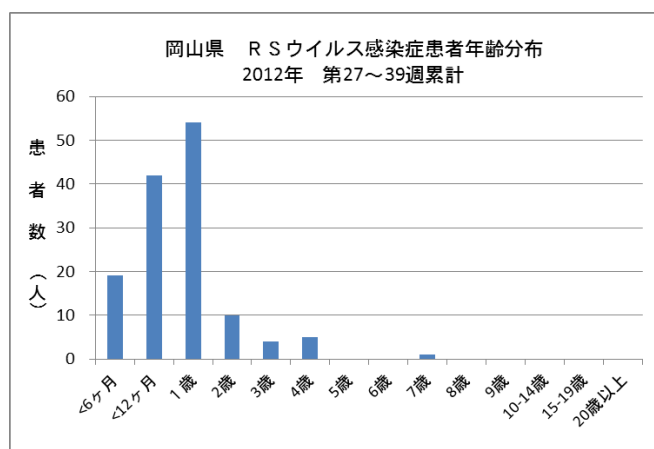
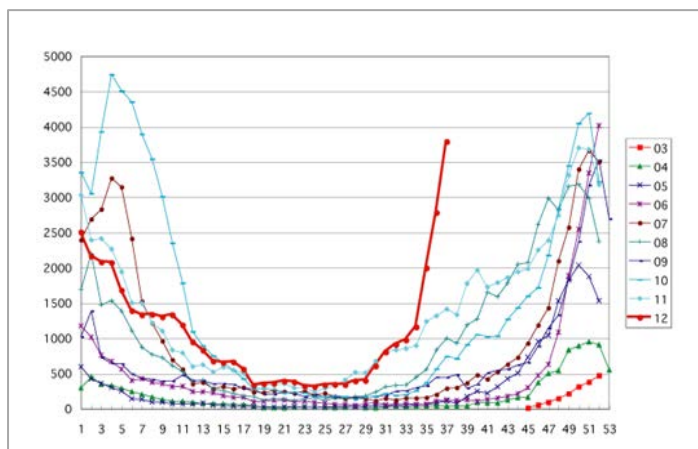
## 1. RSウイルス感染症



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとして、グラフを作成しています。

**RSウイルス感染症**は、前週より大きく増加し（定点あたり0.46→1.06人）、2004年の調査開始以降、この時期としては最も患者が多くなりました。患者は乳幼児が中心であり、2012年第27～39週における累積報告数の年齢別割合は、0歳が45%、1歳が40%、2歳が7%の順であり、0歳の発生が最も多く、1歳以下で全体の85%占めています。地域別では、岡山市（定点あたり1.21→2.43人）で患者が増加しています。全国でも、第35週以降急激な増加を見せており、今後の動向に一層の注意が必要です。

全国RSウイルス感染症 過去との比較グラフ 第37週  
(国立感染症情報センター HPより)



### 【RSウイルス感染症とは】

RSウイルスによる乳幼児の肺炎・細気管支炎などを起こす急性呼吸器感染症です。流行の中心は1歳以下の乳幼児で、乳幼児の肺炎の50%、細気管支炎の50～90%を占めるとされています。2歳までに、ほぼ100%の子供がこのウイルスの初感染を受けるといわれ、年齢を問わず、生涯にわたり感染を繰り返しますが、通常年齢が上がるにつれ、重症化することが少なくなります。(国立感染症研究所 感染症の話「RSウイルス感染症」)

潜伏期は2～8日で、発熱、鼻汁、咳などで発症し、軽症の感冒様症状から、重症の細気管支炎や肺炎などの下気道疾患に至るまで様々です。通常8～15日で軽快しますが、初めてかかる乳幼児では、しばしば肺炎や細気管支炎を発症します。1歳以下、特に生後6ヶ月以下の乳幼児では、無呼吸や急性脳炎などの重い合併症を引き起こすことがあり、入院を要することもあります。

**RSウイルス感染症は、症状の重症化や合併症から、特に乳幼児期において非常に注意が必要です。お子さんの体調が悪い時は、早めに医療機関を受診してください。**

保健所別報告患者数 2012年 39週 (2012/09/24～2012/09/30)

2012年10月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	56	1.04	34	2.43	13	1.18	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	9	0.64	9	0.82	-	-	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	221	4.09	69	4.93	42	3.82	51	5.10	19	2.71	13	3.25	2	1.00	25	4.17
水痘	18	0.33	7	0.50	5	0.45	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	9	0.17	2	0.14	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	0.44	10	0.71	9	0.82	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	36	0.67	12	0.86	2	0.18	8	0.80	2	0.29	8	2.00	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	19	0.35	3	0.21	4	0.36	9	0.90	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	1	0.20	5	1.25	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 39週 (2012/09/24～2012/09/30)

2012年10月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	9	0.64	9	0.82	-	-	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	221	4.09	69	4.93	42	3.82	51	5.10	19	2.71	13	3.25	2	1.00	25	4.17
水痘	18	0.33	7	0.50	5	0.45	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	9	0.17	2	0.14	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	36	0.67	12	0.86	2	0.18	8	0.80	2	0.29	8	2.00	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	19	0.35	3	0.21	4	0.36	9	0.90	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	1	0.20	5	1.25	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2012年 第39週 2012/09/24～2012/09/30 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	56	8	14	25	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	-	-	2	1	1	6	2	3	1	2	1	5	-	-
感染性胃腸炎	221	12	24	40	21	20	19	11	12	7	5	7	19	6	18
水痘	18	-	-	5	1	4	4	1	-	2	-	1	-	-	-
手足口病	9	-	-	4	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	1	12	7	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	36	-	-	8	7	6	8	2	2	1	-	1	1	-	-
流行性耳下腺炎	19	-	-	-	1	2	1	7	3	2	1	-	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	3	2

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

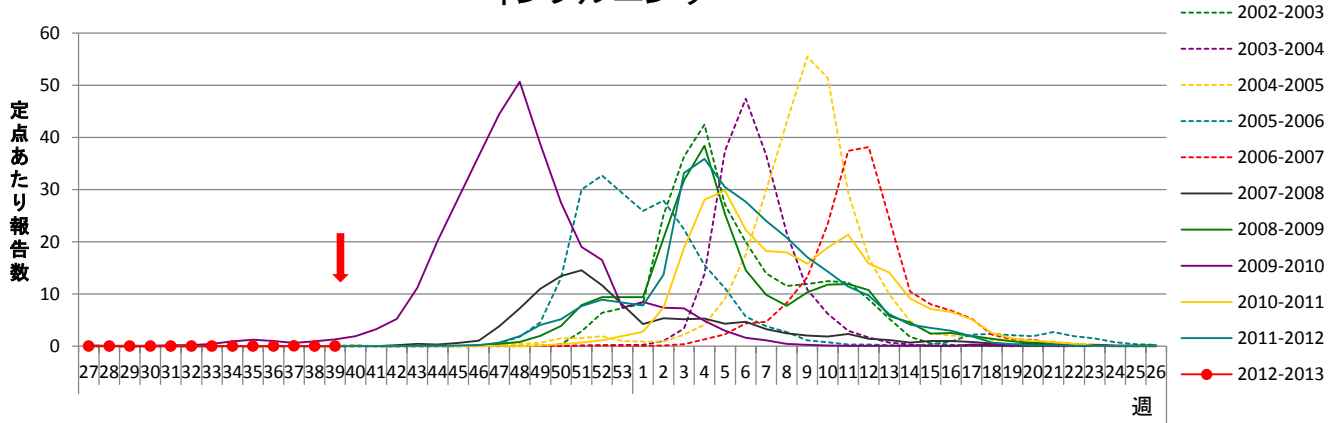
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

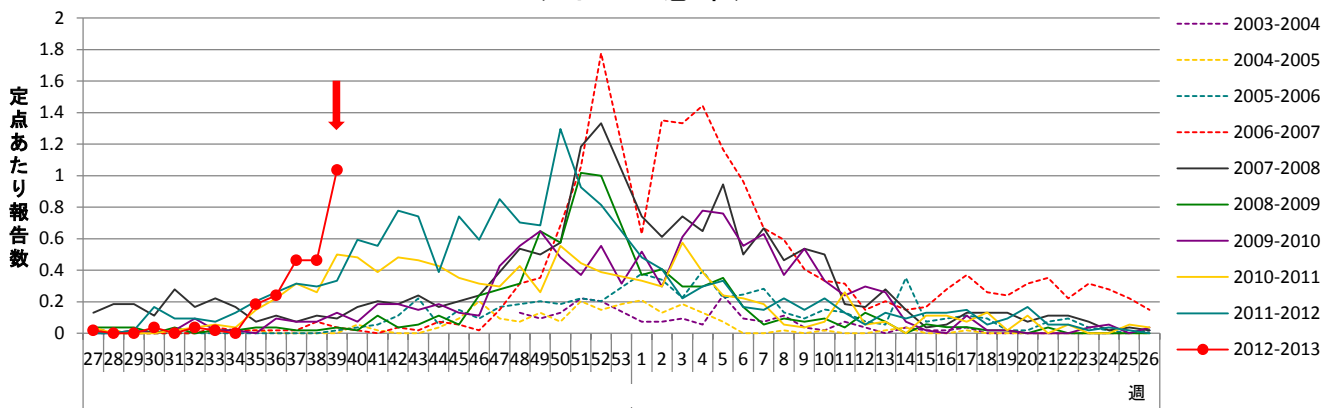
2012年 39週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	332	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	2	148	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	3	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	20	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	11	ウイルス性肝炎*3	-	5	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	14	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	5	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	風しん	-	6	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

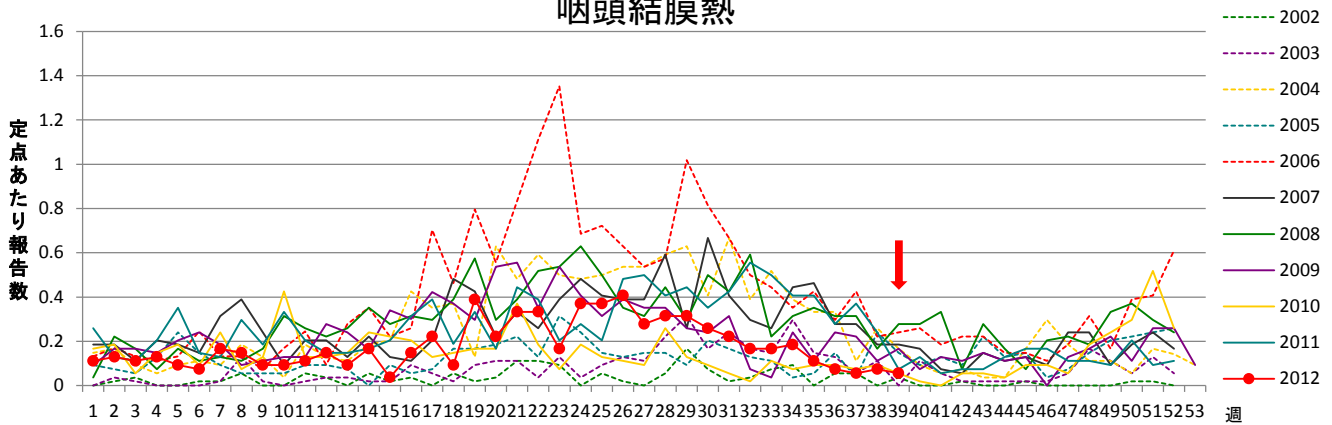
### インフルエンザ



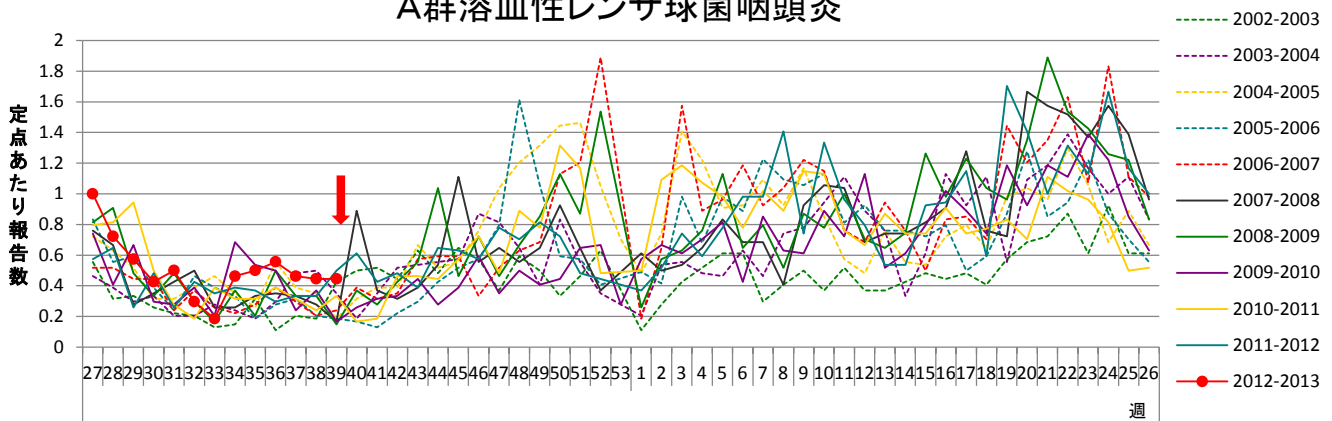
### RSウイルス感染症



### 咽頭結膜熱

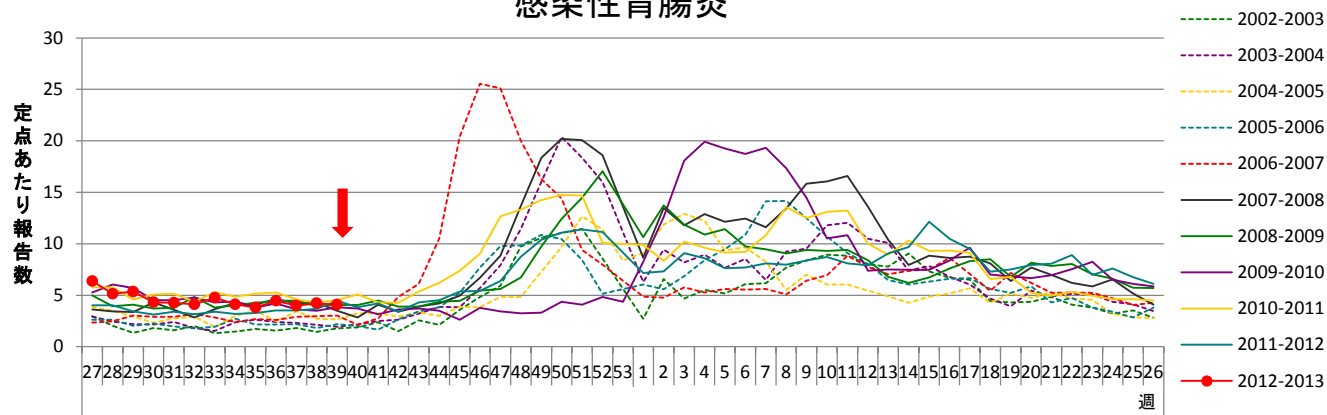


### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

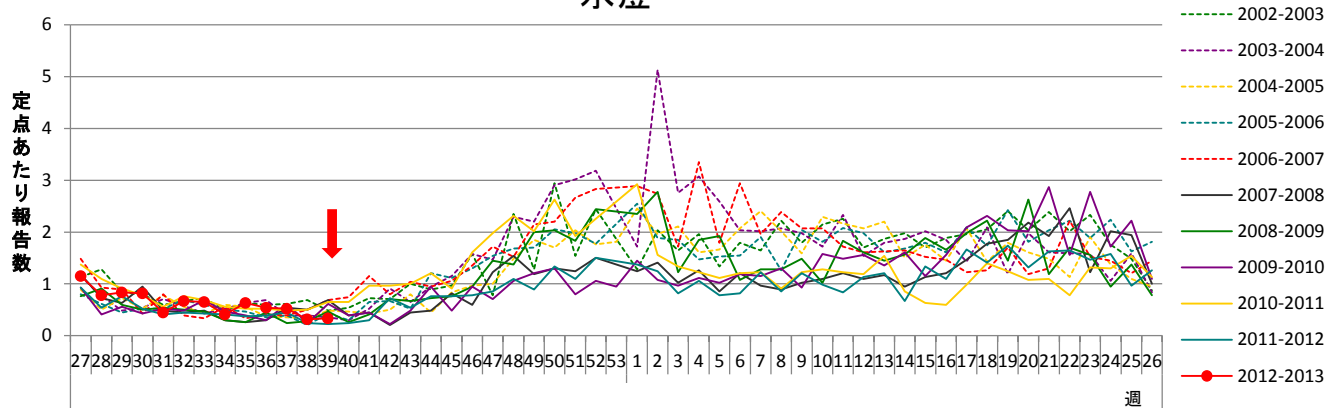




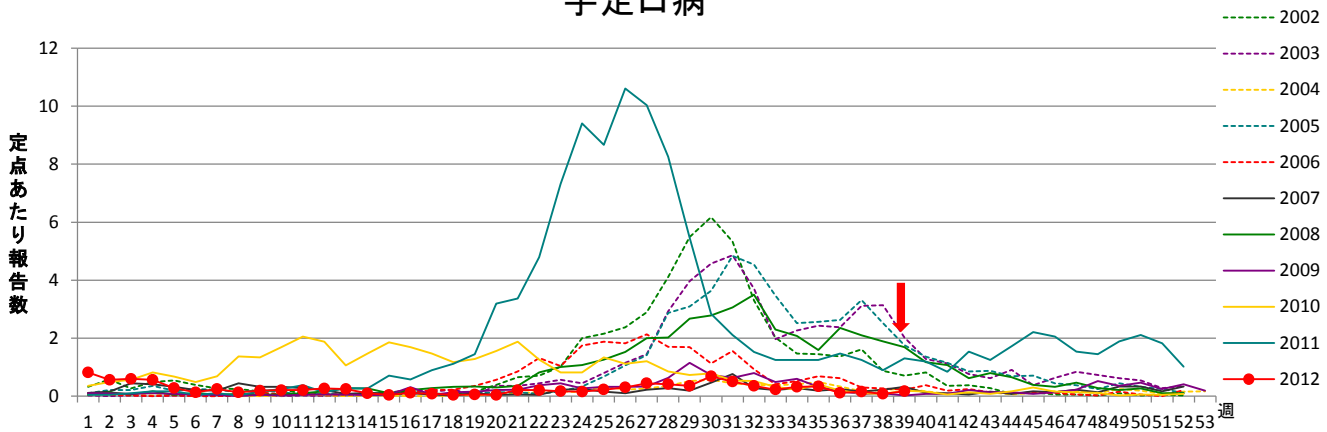
### 感染性胃腸炎



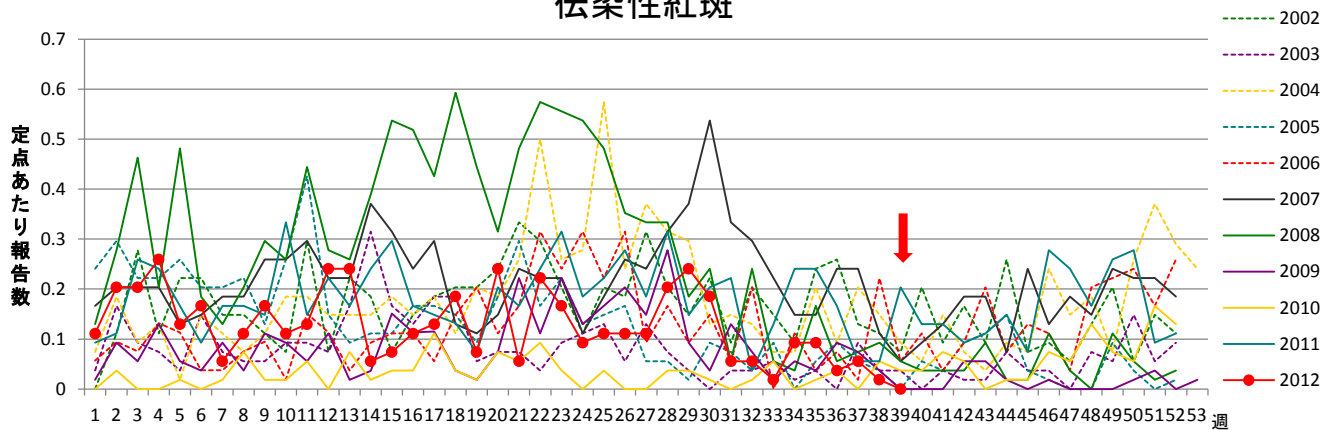
### 水痘



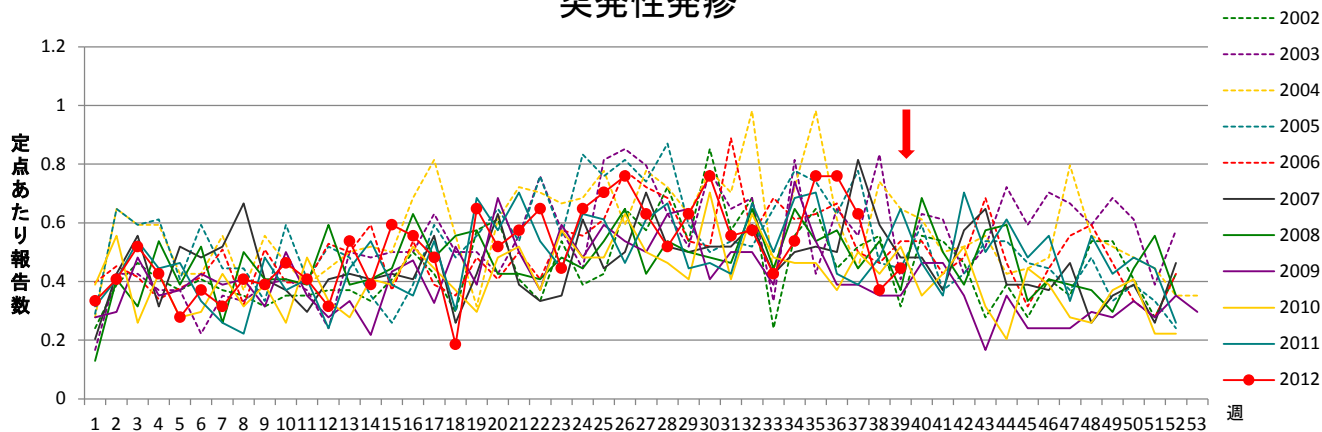
### 手足口病



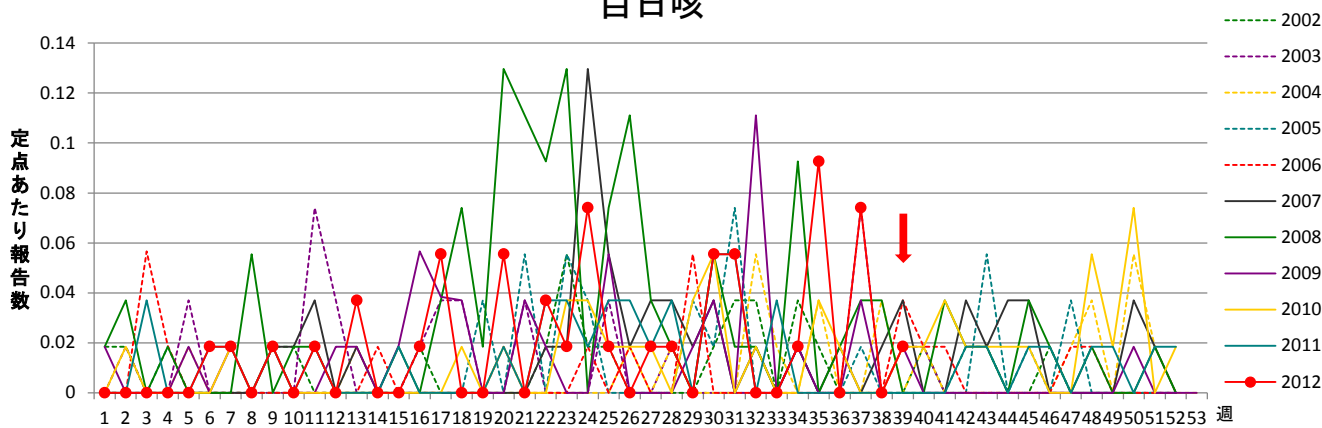
### 伝染性紅斑



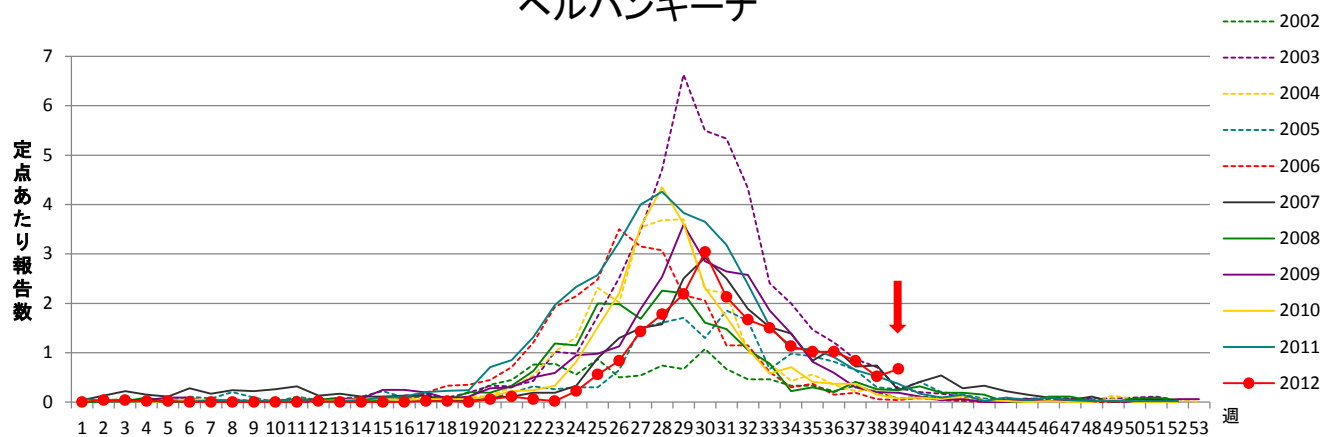
### 突発性発疹



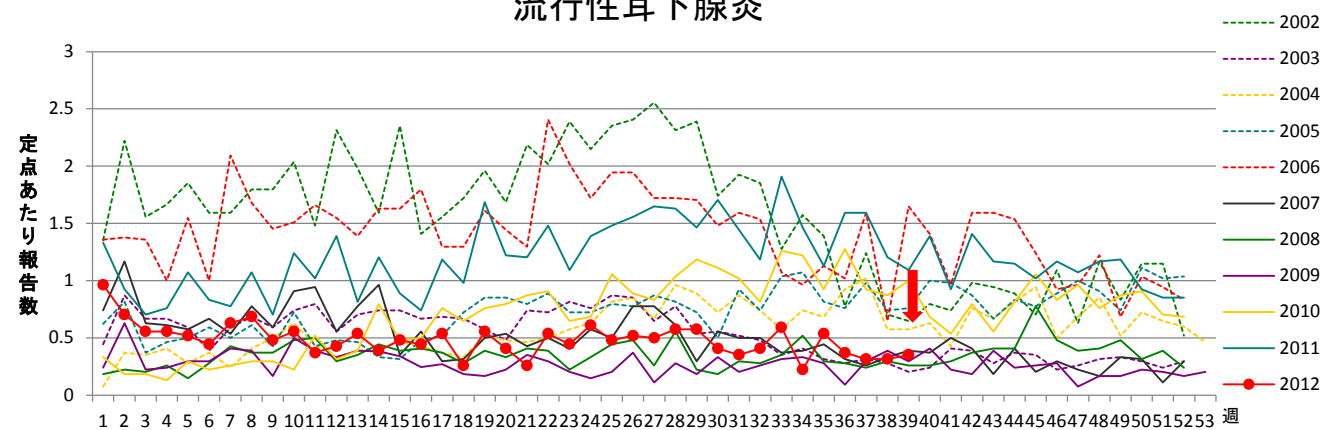
### 百日咳



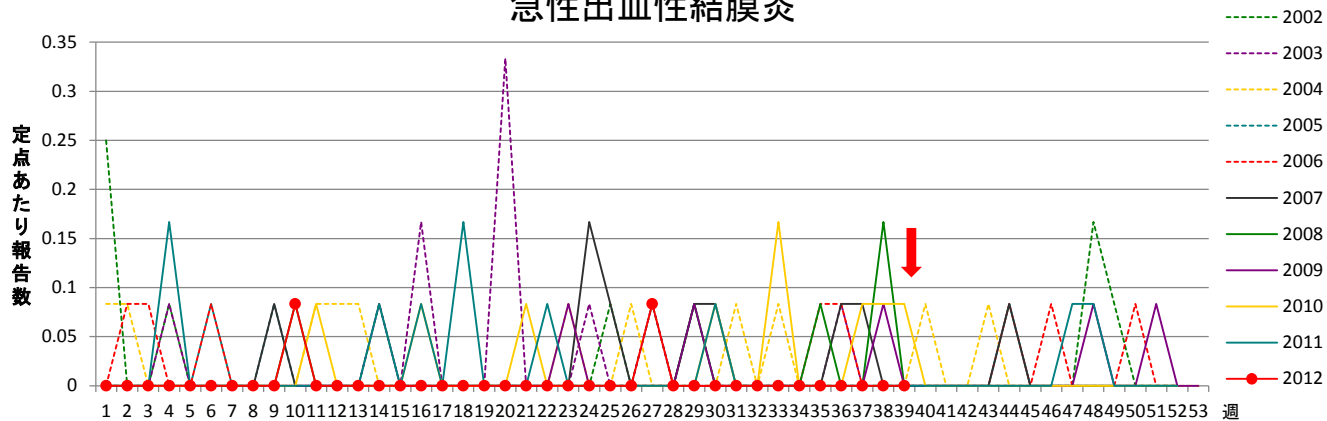
### ヘルパンギーナ



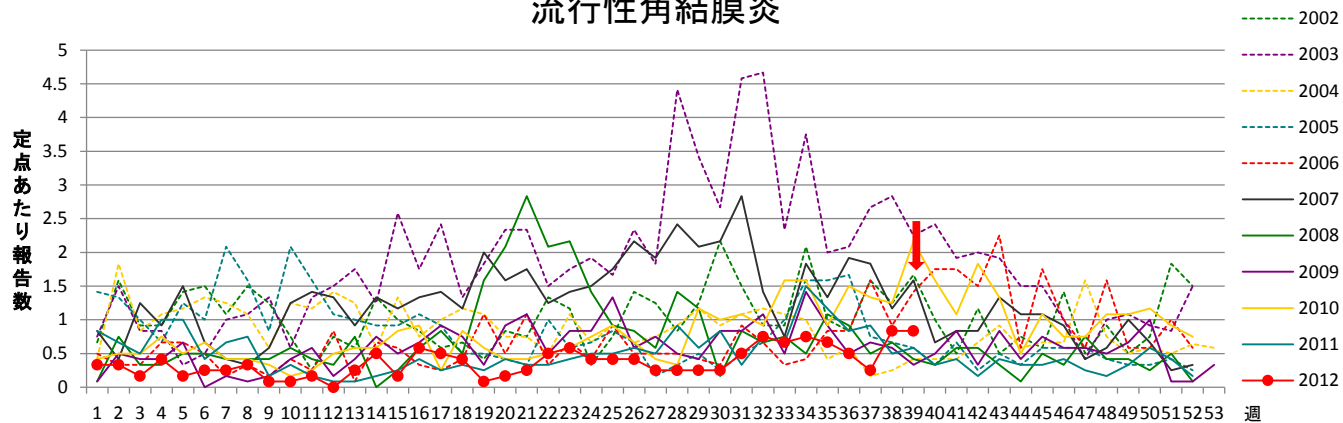
### 流行性耳下腺炎



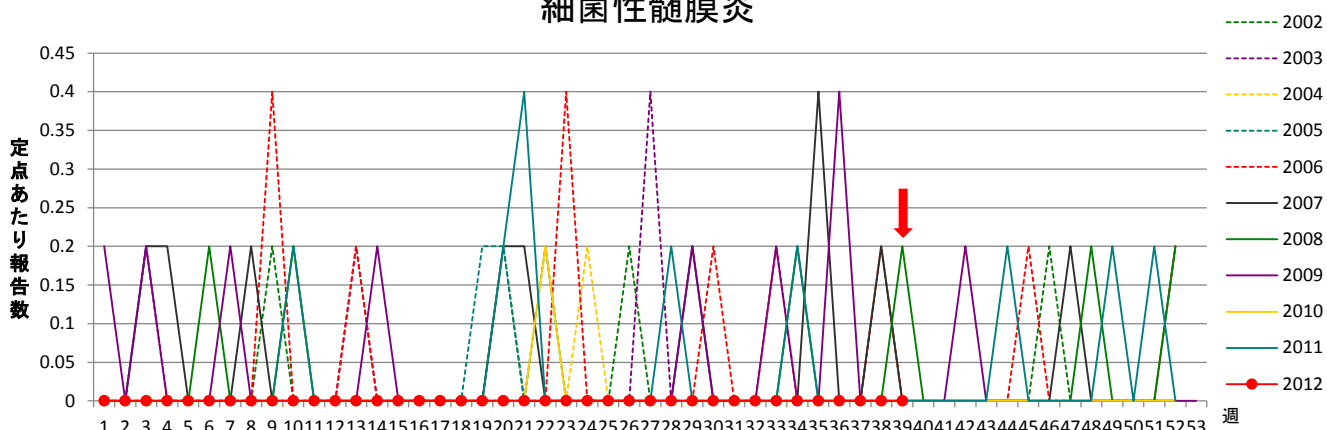
### 急性出血性結膜炎



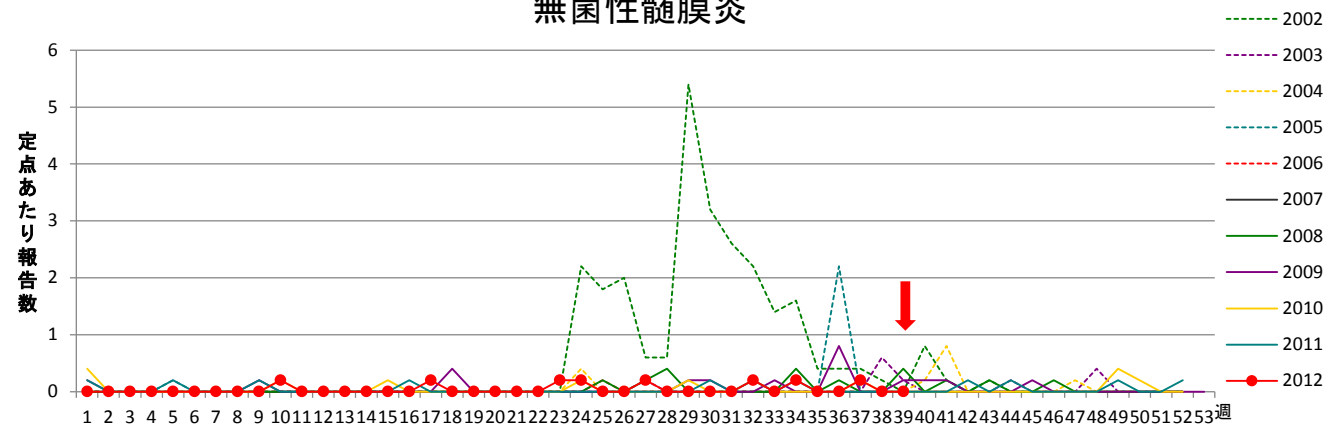
### 流行性角結膜炎



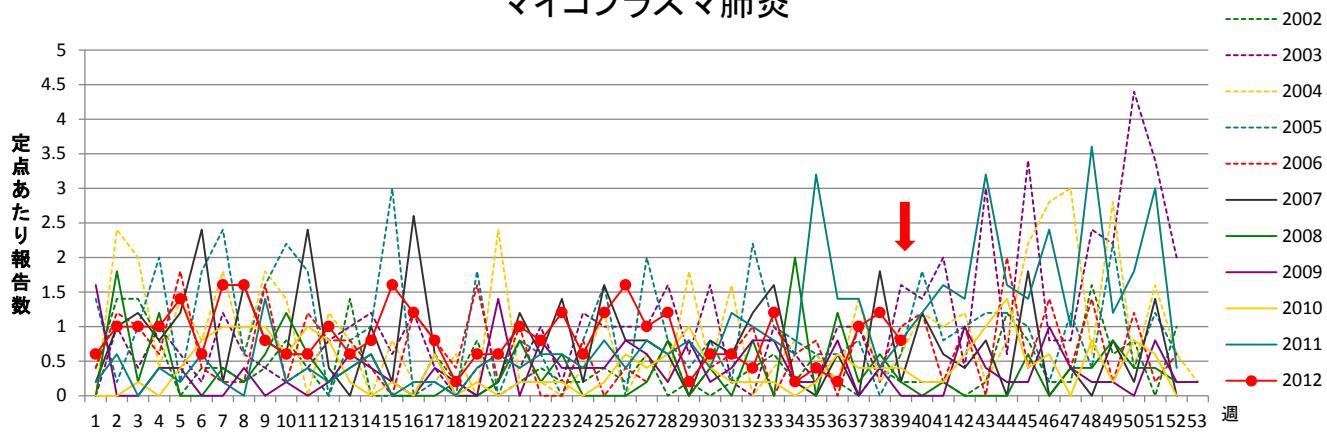
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎

